

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス「ぶくぶく」		
○保護者評価実施期間	令和6年11月8日	～	令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55名	(回答者数) 33名
○従業者評価実施期間	令和6年11月8日	～	令和6年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達が安心感をもって、通所を楽しみにしてくれている。 保護者が事業所の支援に満足していただいている。	日頃から、一つでも楽しかったという思いを持って自宅に帰ってもらえるよう支援をしている。 スタッフがひとつひとつの言葉かけを大事にし、関係性を築けるよう意識している。	落ち着いた様子だけでなく、不穏になった時にどんな対応がとれるか日々スタッフで考えておく。また、保護者にも一緒に子育てをしているという意識を持っていただけるよう、細かな配慮を続ける。
2	スタッフ同士の情報共有がなされている。	引きとり時に受けた情報を、フロアにいるスタッフへ確実に伝えられるよう時間を取っている。 帰りの際も、伝えもれが無いよう、確認してから出発している。	ミーティング時の情報交換を密にとり、連携が取れるよう引き続き取り組みを進める。
3	子どもの事を理解し、保護者のニーズを分析して支援計画が作成されている。	・日頃からの子どもたちへの支援に加え、面談や送迎時の聞き取りを含めて支援計画を作成している。 ・一人の意見に偏らないよう、ミーティングなどで複数の意見を取り入れて作成するようにしている。	学校・他事業所・相談支援事業所など、情報を集めて支援計画の充実を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者に対しての家族支援(きょうだい児への支援)や保護者同士の交流の機会を設けること。	・きょうだい児への支援はニーズがあるのか、どんなアプローチができるのか模索中である。 ・保護者同士の交流の機会は、年一回の保護者会にとどまっている。	外部の研修・イベントの情報提供といった間接的な支援は十分に行っている反面、ぶくぶく主体の研修・イベントは年1回である。機会の充実と回数を増やしていけるかを検討する。
2	職員の配置数の課題。	人員基準・加配体制に問題はないが、充実した支援体制としては、現在の人数にプラスしていかなければならない。	福祉人材の不足は最近の話ではなく、数年にわたる問題でもある。現在は法人内でスタッフを分配し、運営をしている。一般的な求人に加え、東京都のふくチャレ、ボランティアの募集などでつながりを作って行く。
3	各種マニュアル、訓練等の発信。	HPに、2022年から各種マニュアルを掲載しており、訓練等は、連絡帳や送迎時に報告をしている。 スポット利用の方など利用回数が少ない方への情報発信が少なかった。	今回の評価表をHPに掲載する際、保護者へ改めてマニュアル等への周知を行う。 また、子どもに関する事や運営に対する相談をいつでも受け付けている事を周知する。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイサービス「ぶくぶく」		公表日		令和6年 12月 23日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	0		・引き続き、定員10名を遵守する。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	1	・職員の人数が不十分な中、お互い声を掛け合い担当を決めるなど工夫している。 ・もう1名スタッフがいると助かる場面があるが、基準人員や加配人員は配置されている。	・より良い支援のために職員の増員を行う。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	0	・生活スペースと作業スペースを分けている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	0	・活動に合わせて机を動かしたり、子どもを安心させて遊べる場所へ誘導したりしている。 ・もっと広げれば、とは思うが、目の届く空間である。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	0	・個室は無いが、なるべく子どもの意に沿えるよう空間を仕切っている。 ・必要に応じてベッドルーム（静養室）を活用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10	0	・スタッフが常に目を通す環境にある。 ・毎月、会議で示されている。	今回の自己評価を通して、ぶくぶくの強みとこれから伸ばせる項目を精査する。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	・集計したものをミーティングで確認している。	今回の評価を通して、ぶくぶくの強みとこれから伸ばせる項目を精査する。	
	8	職員の意見を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	・細部にわたり、報告できる場を設定している。 ・ミーティング時や送迎の車内などでそれぞれの意見交換をして改善・相談できている。 ・定期的な会議が設けられている。	面談を設け、個々の意見をより吸い上げやすい環境を作る。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	10		今後の課題である。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	0	・年間計画を立てている。 ・研修の機会を提供している。 ・内部研修（法人内含む）、外部研修を行っている。	・外部研修により出ていけるように、時間の確保をする。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	1	・職員間で日報に支援目標を入れ、毎日確認できるようにしている。	・今年度、支援プログラムを公表予定である。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10	0			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0	・相互に報告しあっている。 ・ミーティング時や日々の職員間の打ち合わせの中で支援の検討ができています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	0	・責任者が必要に応じて確認している。	支援計画の確認だけで終わらず、計画の評価を個々のスタッフで行う場を作る。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	0			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	0		新しい項目であるため、引き続きスタッフへの周知をしていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	0	・レク担当を決めたり、イベントを企画したり全員で話し合っている。 ・定期的な会議で確認している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	0	・雨天時の活動、長期休み中の活動がマンネリ化しないように案を出し合っている。 ・大まかな行事は固定化しているが、内容を変えている。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10	0	・制作、活動等実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	0	・個に応じた内容も含まれている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	0	・引継ぎ等で共有化している。 ・支援当日は難しくても、必ず伝えられるようメモに残して共有している。 ・支援当日は帰宅するスタッフもいるので、翌日に行っている。	・翌日の支援前の打ち合わせで共有する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	0	・6ヶ月に一回のモニタリングを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	10	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10	0	・選べるおもちゃカード・カタログを活用している。 ・個々の課題を配慮している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	0		今後もぶくぶく側からも担当者会議等の呼びかけを行っていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	0	・江戸川区放課後等デイサービス連絡会に所属し、情報交換を行っている。	今後もぶくぶく側からも担当者会議等の呼びかけを行っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	7	・依頼があれば行っている。 ・保護者から資料としていただいている。	新1年生の新しい利用の際は、就学前施設と連絡を取り合い、相互理解に努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	7	・依頼があれば応じられる資料は揃っていると思う。	依頼があれば情報提供を行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10	0	・都度、研修のお知らせをスタッフに配布している。	スタッフへの研修への参加を促したり、センターからの講師の派遣を促すなどの取り組みを引き続き進める。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	8	・公園で地域の子どもたちと遊ぶ機会はあるが、積極的に行っていない。	引き続き、近隣の子ども達との交流を行う。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	9	・江戸川区放課後等デイサービス連絡会の代表が出席した内容の報告を受けている。	連絡会の代表者が自立支援協議会に出席した際の情報を伺う。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	0	・連絡帳を通し理解を深めている。 ・連絡帳のやり取りやLINE送迎時に共有できている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	0	・LINEを通じて家族への情報提供を密に行っている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	0		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	2	きょうだい児への交流の機会は設けていない。今後の課題。	きょうだい児へのアプローチがどんなことができるのか検討をしていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0	・話し合いを重視し、対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	7	・挨拶をしたり、マンションの共有部分を使用する際は、手紙を入れたりしている。	今後の課題であるが、近隣の方々にデイを知ってもらいイベントの開催を目指す。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	0	・HPに掲載している。 ・活動ルームの施設、衛生環境の確保、転倒防止等配慮等がマニュアルに沿って行われている。	HPに掲載しているマニュアルの周知が足りない印象。保護者への周知を進める。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	0		より具体的な訓練を行えるよう、消防との連携を深める。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	10	0		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	0	・個人に応じた対応ができています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	0		保護者へ、安全計画への周知が足りない。計画内容を伝え、ご納得いただける環境を作る。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	0		保護者へ、安全計画への周知が足りない。計画内容を伝え、ご納得いただける環境を作る。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	0		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10	0	・現在、事例がない。		